

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100657		
法人名	有限会社 ホットライフ		
事業所名	グループホーム ホットライフ		
所在地	佐賀県佐賀市鍋島町大字森田82-10		
自己評価作成日	平成26年8月31日	評価結果市町村受理日	平成27年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/">http://www.kaigokensaku.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成26年11月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>介護理念を</p> <p>1.私たちは、明るく笑顔でケアを行ないます。</p> <p>2.私たちは、思いやりを持ってケアを行ないます。</p> <p>3.私たちは、利用者中心のケアを行ないます。として、一人ひとりの意思を尊重し、状態や状況に応じたサービス提供を行っている。またホームの新聞を作成し、毎月家族に日常生活の様子を伝えたり、来訪時に希望を聞くなど、積極的に信頼関係作りに取り組んでいます。健康管理は体操を体調や体力に合わせ行い、体調不良時は協力医療機関との連携を図り気を使っている。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は交通量の多い道路から少し離れた場所にあり、西側には田畑が広がり静かな雰囲気のある。敬老会やクリスマス・運動会など様々な行事を家族や職員と共に楽しまれている。また、南に面した大きな窓を通して、日差しがリビング全体に明るくやわなから光を取り込み、くつろげる安らぎが感じられる。職員と一緒に食事の準備をしたり、事業所の周囲を散歩しながら季節の移ろいを感じてもらうなど、入居者それぞれの思いを大切にしながら支援されている事業所である。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をいつも見えるリビングに掲示し、全員で共有し実践に取り組んでいる。	リビングの壁に理念を掲示し、勉強会の際に学び、理念を共有している。また、職員の連絡ノートを活用し、意識付けや声かけを行い、理念の実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元のスーパーを利用し、新鮮な食材を配達して貰っている。また敬老会やクリスマス会は地域の施設を利用し交流を深めている。	入居者合同の運動会や夏祭りは事業所で行い、敬老会・クリスマス会は地域施設を利用し、地域とのつながりを広めている。しかし、立地場所などから、地域への事業所の認知は十分ではない面がある。	民生委員や自治会の協力を得て、地域とのつながりを深めながら、事業所から地域へ、役割や働きを伝え、理解交流が得られる取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	スーパーからの食材納入時や施設見学に来訪された時などに認知症の症状や介助方法を説明したり、入居者と会話される事が理解を深める機会になっていると思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、家族・民生委員・地域包括センター等の参加にて運営推進会議を行い皆様からのアドバイスを頂き、サービス向上に努めている。議事録は掲示板に掲示し公表している。	事業所の行事と併せて会議を行い、事前に家族へ便りを送り出席を促している。民生委員も協力的で、意見交換は積極的に双方向で活発になされ、サービス向上に向けた取り組みとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が市町村担当者に連絡・連携することで協力関係を築いている。	地域包括支援センター担当者には、推進会議の際相談や対応を依頼したり、市担当への報告や照会は、その都度支障なく対応を受けるなど、円滑な協力関係作りがなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故防止対策をいつも考え、身体拘束をしないケアを実践している。	拘束については、日常のふりかえりや年間の研修で理解を深めている。また、言葉かけにも配慮した対応を職員全員で取り組んでいる。しかし、見守り職員が不足する時間帯などで、一階玄関が施錠されている。散歩を希望される入居者へは、その都度付添い散歩している。	入居者の行動や兆候のアセスメントや、見守り体制の見直しなどで、施錠する時間を短くしていくなど、拘束のない支援への取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	講習会に参加したり、毎月のカンファレンス時に勉強会を実施している。身体状況は入浴時や更衣介助時に確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度や生活保護を利用されている利用者がおられる。 随時支援できる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は十分な説明をおこなっている。 また、法改正時や料金改定の際も説明を行い、理解・納得して頂き同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを実施したり、ご家族様からの意見を大切にしている。意見は検討し、文書にし運営に反映している。いつでも閲覧できる。	質疑内容を考え、家族目線のアンケートを行い、家族面会時等は、意見を言い易い雰囲気作りに配慮している。意見の検討結果を家族へ伝え、運営に反映されるよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンス時、職員の意見・提案を聞く機会がある。また、職員連絡ノートを活用し周知させている。	職員へは日常的に意見が出せる雰囲気を作り、連絡ノートや、毎月一回職員全員が提出するインシデント報告での提案や意見を検討し、反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年、目標を設定し職員が向上心やスキルアップできるようにつとめている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	カンファレンスで勉強会を実施している。研修や講習に参加出来るよう調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者や地域の交流会に参加し情報交換などサービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時の不安解消のために家族と一緒に見学して頂き要望等を聞き、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込前に見学に来て頂き、不安な事や困っている等の情報を共有化して要望に応えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の状態や状況に合わせ必要な事はすぐに対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の出来る事、出来ない事を把握しその方に沿った援助を行うことで、笑顔で過ごして頂く関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、利用報告や新聞を送付したり、面会時に日々の暮らしの様子を報告している。また、行事への参加も呼びかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・親類の方が面会に来られるなど交流がある。	知人や家族の訪問には、お茶を出したり気兼ねなく居室で話しをしてもらえよう配慮している。しかし、馴染みの場への外出などは、入居者の体調等もあり機会が作れていない。	入居者の少人数や個別の外出支援など、機会を見直し、馴染みの場や人についてアセスメントも深め、馴染みの場所へ出向く支援につながるよう期待したい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように見守り、レクリエーション等で利用者同士が交流や関わりを持つよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退去が殆んどであり、入院先に面会に行くなど継続した関係に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	申込み時にそれまでの生活状況を聞き取り、希望や意向の把握に努め、カンファレンスで検討している。	思いを表わす事が困難な方には、家族からの情報等を参考にし、その表情や動きから、思いを把握することに努め支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や関係機関に情報提供を依頼している。また、本人との日常会話の中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録や夜間の申し送りノート、職員連絡ノートなどを活用し共有している。介助時に状態の変化を観察し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状況を家族に報告し意見を伺い、職員と相談して現状に合ったプランを作成している。	毎月カンファレンスの際に、家族からの意見や職員の意見を聞き、計画更新や変更が必要か検討を行い、入居者それぞれに沿ったプラン作成に努めている。しかし、プランの途中経過のモニタリングが十分とは言えない。また、担当者会議の書式が整理が十分とは言えない。	入居者個々のプランについて、途中経過の確認がなされるよう、モニタリングの実施と、担当者会議の書類を整備されることが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や申し送りノートに記入し、職員間で情報を共有している。カンファレンスで話し合い介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の要望に対して家族と職員で協力してできる限り取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節の行事を地域の施設へ送迎バスなどを利用し、ご家族も参加の上行っている。料理は高齢者向けの調理やきざみ食等に対応して貰い、食べやすい食事を楽しんで貰っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望のかかりつけ医に定期的な受診と症状・状態に応じた受診を支援している。専門病院への受診は家族の協力を得ている。必要のある場合は職員も同行している。	受診は職員が付き添い、他科は家族協力が困難な時は事業所に対応している。定期受診結果は、便りで報告し、緊急の際は電話連絡を行っている、適切な医療受診が受けれるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関とは定期受診時や突発的な体調不良の際にも、気軽に相談できる関係が築けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、協力医療機関へ入居者の体調変化に合わせて綿密に情報交換や相談できる関係が築けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や、終末期について書面で説明と同意の確認をしている。その時がきたら再度家族の意向を聞きホームとして出来る所までの支援を行っている。	入居時に本人家族へ、重度化・終末期時の希望を聞いて、状態の変化に沿って家族とプランを見直ししながら、話し合いを行い、事業所全体で出来る範囲の支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新職員は普通救命講習を受講している。年に2度のAED講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、全職員で日中と夜間を想定して避難訓練を行っている。また、近隣と協力体制を築いている。	消防署の指導を受け、災害時の避難方法経路を確認している。また、夜間想定訓練や、避難器具の見直し、その他災害時の非常食等の整備など、近隣の協力体制作りと併せて対策を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴時やトイレ時のプライバシー確保に注意している。個人記録等をテーブル上に放置しない等気を付けている。また、誇りを傷つけないように言葉遣いにも気を付けている。	職員全員が接遇の研修を行い、日常の言葉づかい、トイレや入浴時の声かけなど、人格を尊重しプライバシーに配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションを大切にし思いや希望が言える雰囲気作りを行っている。声掛けにて意思の確認をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、本人様のペースで過ごされている。積極的に行動される方は見守りを行い、そうでない方には声掛けして希望を聞き行動して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、鏡の前で髪を整える。本人の好みの服を着用しておられる。季節に合った服装の声掛けを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとり、出来る事を手伝って貰っている。行事や季節感をだして食事を楽しんで頂いている。希望を聞き提供することもある。	季節感も考慮し、新鮮な食材を用意してユニットごとに、入居者の要望も取り入れて食事作りがされている。また、入居者の出来る事を手伝ってもらい、食事を楽しむ支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事量を確認し記録している。本人に合った形態で提供している。食事外の水分摂取量も確認し記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の状態に応じて、自力や一部介助、全介助などで口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄の時間や状態を把握し声掛けや誘導を行っている。夜間帯も声掛け誘導をしている。	それぞれの排泄パターンをチェックし、時間を見計らい、さりげなく誘導し、出来るだけトイレ排泄が継続されるよう支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材を使用した献立や乳製品、果物を提供している。排泄表で個人の状況を把握し、提携病院に相談や協力を得ている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、利用者のタイミングに合わせて楽しく入浴できるように心がけている。入浴日以外でも希望があれば可能である。	入浴日は週三回あり、時間帯は自由で順番も入居者の希望を考慮し、ゆっくり楽しんでもらえるよう支援がなされている。入浴日以外でも、希望があれば入浴できる体制にある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息は自由に出来る。また、本人の状態を見て休んで頂いている。寝具や室温にも気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬は説明書を確認しチェックを行っている。体調の変化があった場合は提携病院に相談、受診を行うなど、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意分野を活かして裁縫や掃除・洗濯物たたみ・食器拭き等を行って頂いている。また、季節ごとのぬり絵やカルタなど楽しんで貰っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	敬老会・クリスマス会の食事会にご家族や民生委員の方をお呼びして一緒に出掛けている。また、天気の良い日には職員と一緒に戸外へ散歩に出掛けている。	天候が良ければ事業所の周囲を散歩したり、外気に触れるため戸外への誘導を行い、短時間でも外に出て、季節感を感じてもらえるよう支援に努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知度が重度化され、お金の管理ができない利用者には家族と相談して買い物代行している。財布に少額のお金を入れ安心して貰っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により電話をかけておられる。プッシュボタンは職員が手伝っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとや、行事開催時に飾り付けや展示をし、季節感を演出している。カーテンをリビング窓やトイレ内にも設置し、温度や採光を調整している。	トイレ・風呂場にはマークが貼ってあり判り易く、入居者の作品も飾られている。また、大きなリビングの窓からは、やわらかい日差しが入り、職員の声のトーンや足音も配慮するなど、落ち着いて過ごすことのできる共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーやテーブル席などで利用者同士や職員と会話したり、自席で自由に過ごされている。テーブル席の席替えも時々行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外は自宅等から持ち込まれている。家具の配置も安全に工夫している。家族写真や仏壇など置かれている。	居室への馴染みの物の持ち込みは自由で、使い慣れた寝具や家族の写真・タンスなどが置かれている。ベッドの向きも好みに応じて変更が可能であり、居心地の良い居室づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー手摺りを完備し、車イスや歩行器などの移動もスムーズに出来るような安全な環境づくりを工夫している。		